

# 来週の「売り物」記事はこれ



2014年7月18日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 日本人の嗜好を変えた

### ノルウェーサーモンの深謀

20日（日）



回転寿司業界で「異変」が起きているそうです。これまで寿司ネタのナンバーワンとして不動の地位にあったマグロにかわって、サーモン人気がうなぎ登り。いまでは1、2を競うほどだといいます。実はサーモンが寿司ネタ——生で食べられる



ようになったのは、たかだかここ十数年ほどのことです。それまでスモークされた魚肉が酒のつまみとして提供されるのがせいぜいでした。なぜ、生で食べるようになったのか……。それは日本人の「食革命」といっても過言ではないコペルニクスの転回でした。その裏には、生サーモンを日本市場に売り込もうとする、供給国ノルウェーの国家的な戦略がありました。知られざるノルウェーサーモンの「裏のウラ」に迫ります。

日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

## 若者たちよ！

### とりあえず政治の話をしてみよう

夕刊2面特集ワイド 22日（火）



集団的自衛権行使容認の問題で若者たちに取材すると、「分かりません」「関心ありません」という反応が返ってくるのがよくあります。将来に大きく影響するかもしれない問題なのに……。しかし、JR渋谷駅前であった行使容認への抗議イベントに行ってみると、「これまで政治に無関心だったけど、真剣に考えたいと初めて思った」という若者にも出会いました。政治への関心を高めるにはどうしたらいいのか、専門家や若者たちとともに考えます。

### 「米團治の粋な噺で行きましょう」

おんなのしんぶん面 21日（月）



落語家・桂米團治さんの対談コーナー「粋な噺で行きましょう」。今回のゲストは、ピアニストの仲道郁代さんです。「旧知の間柄」という二人の対談。再会を祝した後、米團治さんはモーツァルトのピアノ曲を弾き始め、連弾に誘ったとのこと。粋ですね。



### 猫の肥満対策

くらしナビ面 19日（土）



室内飼いによる運動不足や避妊・去勢手術の影響などで、猫の肥満が問題となっているようです。丸々と太った猫は愛らしくもありますが、健康面からみると肥満は有害。とり過ぎを防止するために、飼い主はどうしたらいいのか、専門の獣医師らに食事の与え方などの注意点を聞きます。

## 増えるシニアの起業

くらしナビ面 21 日 (月)

生きがい作りや社会貢献を目的に今、シニア世代の起業が増えています。定年後に夢やあこがれをもって起業するのはいいですが、現役時代の経験を過信しすぎると失敗することも。どういう強みをいかし、どんな点に気をつけたらいいのでしょうか。起業相談を受けている専門家にアドバイスしてもらいます。



## インサイド「ロンドン五輪から2年～レガシーの今」

22 日 (火) から 3 回



2012年ロンドン五輪の開幕日＝写真＝から間もなく2年がたちます。テーマとなった「レガシー（遺産）」はロンドンの街にどのような変化を生み、市民の生活やスポーツにどうつながっているのでしょうか。約3億ポンドをかけて改修された五輪パーク、スポーツ人口の拡大と促進、ボランティア率の向上……。6年後に迫った東京五輪に向け、目指すべき「姿」のヒントを探ります。

## 海外難民救援（世界子ども救援）キャンペーン「見えない鎖」

毎日新聞と毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団が続けている「海外難民救援（世界子ども救援）キャンペーン」は2014年、開始36年目を迎えました。今回、中米カリブ諸国のうちハイチを記者が尋ね、「子ども奴隷」「児童売買」といった日本では知られざる実態を報告します。ハイチでは、貧しさから親が子どもを預ける「レスタベック」という慣習があります。30万人の子どもたちが預けられて奴隷のように働かされているとされ、社会問題化しています。隣国に売られる子どもも年に2000人ほどいるという、負の連鎖を断ち切るために何が必要なのかを考えます。